

令和８年度碧南ふれあい作業所指定管理者審査委員会次第

日時 令和８年７月２３日（木）

午前１０時から午前１１時３０分まで

場所 碧南ふれあい作業所 ３階会議室

１ あいさつ

２ 議題

（１）令和７年度事業報告及び収支決算について

（２）令和８年度事業計画及び収支予算について

３ その他

碧南ふれあい作業所指定管理者審査委員会委員

	区分	選出団体名等	氏名	役職名
1	市職員	碧南市 副市長	山本 政裕	委員長
2	学識経験を有する者 (市長が必要と認める者)	東海税理士会刈谷支部本会理事	伴野 義雄	
3		日本福祉大学教授	青木 聖久	
4	各種団体を代表する者 (市民の代表)	碧南市民生委員児童委員協議会代表	古久根 久美子	
5		碧南市地域自立支援協議会就労支援部会長	高松 有美	
6		市民公募	加藤 加恵	
7	市職員	碧南市企画財政部企画政策課長	山本 貴史	

任期：令和8年7月1日から令和11年6月30日まで

指定管理者

1	碧南ふれあい作業所	碧南ふれあい作業所所長	渡邊 明香
2		社会福祉法人WH J 理事長	竹内 涼
3		社会福祉法人WH J 法人本部経理部長	角田 和也

事務局

1	市職員	福祉部長	鈴木 美奈子
2		福祉課長	磯貝 浩
3		福祉課福祉総務係長	金原 寛

令和7年度 碧南ふれあい作業所事業報告書

I. 施設概要 利用実績

施設種別	生活介護
事業所番号	2313200020
所在地	愛知県碧南市中山町1-16-1
事業開始日	平成8年7月1日
障害種別	指定なし
定員	生活介護 60名 日中一時 70名
開所日/時間	月曜日～金曜日 9:00～16:00

A. 登録市町村 碧南市、高浜市、西尾市

B. 利用実績

	生活介護	日中一時	事業活動収入計 職員数合計
利用定員	60人	70人	
利用者延数	12748人	1090人	
1日平均利用者数	51人	4人	
稼働率、稼働指数	85.7%	6.0%	
稼働日数	248日	260日	
単価（一人一日当たり）	7,542	6,020	
介護給付費等収入	96,145,823	6,562,000	102,707,823
職員数（常勤換算）	11.7		11.7

II. 事業計画・目標の達成状況

A. 運営目標・理念

- ・「作業に特化した生活介護」 社会人として毎日仕事をしながら、生活介護としてのプログラムや楽しみもある施設。仕事と余暇のメリハリのある生活を目指す。
- ・「高齢利用者の活躍の場を」 高齢になってもできる仕事に取り組み、いつまでも社会の一員として働ける環境を提供し、人生の生きがいと一緒に見つける。

令和7年度は、農園の花苗を通じて地域交流を図り、市内の幼稚園・保育園を訪問し、利用者と園児と一緒に花苗を植える活動を行った。また、中山福祉会と協力して中央中学校の花壇を作業所の花でいっぱいにし、生徒と花苗を通じて交流を深めた。

ひいらぎ特別支援学校では、出前授業の一環として作業所の利用者が生徒に紙漉き作業を教え、体験してもらうことで親睦を深めた。西尾特別支援学校では、授業の一環として利用者と生徒が種から花を育て、碧南市役所と西尾市役所、おしろタウンシャオの玄関前に花を飾りました。この活動は三河新報と愛三時報に掲載されました。さらに、西尾特別支援学校の卒業生に送る色紙を紙漉きで作成する体験も行った。また、令和7年度から安城特別支援学校との交流が始まり、にしお特別支援学校と同様に、授業の一環として花苗づくりや紙漉きを通じて交流を深めた。花苗については、安城消防署南分署と桜井公民館に生

徒の皆さんと作業所の利用者で育てた花を設置させていただき、地域の皆さまにもご覧いただく機会となった。また、安城特別支援学校の生徒さんは授業で紙漉きを行っており、作業所で培ってきたノウハウや技術を伝えながら、一緒にはがき作りに取り組んだ。互いに学び合いながら、楽しい交流の時間となりました。

タニザワフーズの「あゆみの箱」による寄付を契機として、そのつながりを発展させ相互交流の機会創出に取り組んだ。作業所で育成された花苗をケンタッキー碧南店とかつ家西尾店へ設置する取り組みを実施し、来店客に対して福祉活動への理解促進を図るとともに、利用者の社会参加意識の向上拡大に寄与し、共生モデルの構築を目的として地域社会貢献と企業価値の向上を両立させた。

余暇としては、社会見学（リニア鉄道館）、バーベキュー大会、ハロウィンパーティー、クリスマス会など、毎月季節のイベントを企画し、利用者に楽しんで頂き、リフレッシュして頂いた。

高齢班（ピース班）の活動も月に1回以上の活動日を設け、喫茶活動や誕生日会を開くなどして作業以外での余暇活動時間の充実を図った。またそれぞれに個別目標を設定し、リハビリテーションプログラムも含めた運動を行い、健康維持に努めた。

また、今年度65歳を迎える利用者はいないものの、本人・家族の望む生活が継続して行えるよう適時碧南市との連携、調節を図り「65歳問題」解決に向け取り組んでいく。

地域への認知拡大と販路開拓を目的として、紙漉き製品を碧南市のふるさと納税返礼品として登録した。これにより、製品を広く発信するとともに、事業所の取り組みや活動内容を市内外へ周知する機会を創出した。

令和8年2月には社会福祉士実習ソーシャルワーク実習Ⅰにおける日本福祉大学からの実習生1名の受け入れを行い、60時間の実習指導を実施した。実習を通じて、専門職人材の育成に寄与するとともに、職員にとっても指導力や専門性の向上を図る良い機会となった。今後も各教育機関との連携を継続し、地域福祉を担う人材育成の貢献をおこなっていく。

B. 事業計画

生活介護（定員60名）

① 新規利用者2名を目指す

・令和7年度は、4月に卒業生1名と新規利用者1名を受け入れ、さらに6月には高浜市から新規利用者1名が加わり、計3名の新規利用につなげることができた。ただ、7月に1名退所。一方で、施設全体としては高齢化が進んでいることから、今後も卒業生の受け入れはもちろん、地域で行き場のない方々を受け入れられる体制づくりが求められている。そのため、相談支援事業所や特別支援学校との連携をより一層強化し、地域のニーズに応えられる支援体制の整備を進めていく。

② 地域交流

・わらふえすや各種イベントでは、移動式の紙漉き機を活用し、来場者が紙漉きを体験できる機会を設けた。完成したハガキは後日作業所まで取りに来ていただくことで、地域の方に実際に作業所へ足を運んでもらうきっかけづくりにもつながっている。また、認知症関連のイベントでは、作業所で育てたマリーゴールドの種を配布し、作業所の取り組みを地域に知っていただく機会を設け、地域貢献につなげる予定であった。しかし、今年度はイベント自体が休止となり、参加することができなかった。

・紙すき体験の場を年2回設けるにあたり、今年度は、にしお特別支援学校と安城特別支援学校

へ移動式の紙すき機を持参し、利用者が講師となって生徒に紙すき体験を行った。

- ・花苗という作業所のツールを活用し、中央幼稚園や西端小学校との交流を行った。幼少期から障がいのある方と接する機会をつくることで、「自分とは違う特長を持つ人がある」ということを自然に理解してもらい、それが当たり前の風景として根付くように交流を進めた。

- ・令和5年度から「中山福祉の会」の活動に協力している。今年度もその一環として、中央中学校の生徒とともに花苗を育て、地域の花壇の植え替えを利用者と一緒に行った。

③ 利用者の健康管理

- ・毎朝朝礼後にラジオ体操を行った。引き続き行っていく。
- ・高齢班だけではなく、全利用者の健康管理を行う為にも月に1～2回「ボッチャプログラム」「ピース体操（アイディアC体操）」を引き続き行っていき、体力維持を図った。
- ・ボッチャプログラムは、知多郡美浜町にある社会福祉法人みはま福祉会が運営する生活介護事業セルブ・アゼーリアと10月に試合を行い2対1で負けた。11月の日本福祉大学のボッチャ大会では、2回戦敗退に終わった。2月には、社会福祉法人くるみ会と試合を行い、3対0で負けた。職員が健康の知識をつける為の研修は行えなかった。

④ 利用者支援の強化

- ・令和6年度に引き続き、令和7年度も利用者の気持ちを知る会議を月1回開催した。今年度は主に、強度行動障害に関する氷山モデル作成の講習を実施し、職員が福祉業界の最新の支援知識を身につけられるよう研修を行った。これにより、職員一人ひとりの支援に対する意識向上を図ることができた。また、障がい者総合支援センター第2ひまわりとはリモートで氷山モデルの作成方法について学び、さらに株式会社あいぽへ見学に伺い、強度行動障害の支援方法について理解を深めた。外部研修で得た知識は職員会議で共有し、支援の質の向上につなげていった。

⑤ インカムの導入

- ・令和7年度からインカムを導入し、業務連絡をより円滑に行える体制を整えた。

⑥ 国際共生

- ・令和7年度は毎月ポルトガル語研修を実施した。研修当初は発音アプリを活用して勉強会を行っていたが、それだけでは習得が難しい面もあったため、途中からポルトガル語を話せる職員を講師として招き、挨拶から日常の簡単な会話まで学習を進めた。その結果、今年度から通所しているブラジルの利用者の方に、職員がポルトガル語で挨拶できる程度まで上達することができた。今後、外国籍の利用者が増える可能性もあるため、引き続き簡単な日常会話ができるレベルを目指して日々努力していきたい。

日中一時支援（定員70名）

- ・令和7年度は利用者の高齢化が進んだこともあり、移動に車いすや歩行器を使用する方が増え、5:1の職員配置では対応が難しい状況が生じた。また、売上と人件費のバランスが取りにくいこともあり、室内で楽しめる企画を提案し、利用者に楽しんでもらえるよう工夫した。季節のイベントや調理実習などを毎月計画し、特に調理実習では安全面に十分配慮しながら実施したこ

とで、安心・安全に取り組むことができた。

また、介護保険へ移行した利用者が日中一時支援を利用するようになり、令和7年度現在では4名が利用している。

C. 研修計画

【碧南ふれあい作業所が目指す職員像】

『利用者の気持ちに寄り添い、自分で考え行動ができ、職員で共有し合える伴走者（職員）になろう』

まずは、自分の気持ちを理解し、他者の持っている視点や意見を理解し、自分ごととして感じとり、共感力を高めていく。それと共に、行動も変化していけるようにしていく。

・全職員共通

『利用者主体の支援』と『チーム連携』

・一般職員

『利用者に寄り添った丁寧な支援者』

利用者の気持ちや状態に耳を傾け、「できることを引き出す支援」を意識した行動がとれる職員を目指していく。

・リーダー職員

『チームを牽引する支援のリーダー』

支援の質を高め、一般職員に対して指導・助言が出来る。利用者の状況や支援計画をチームで共有し、実践をリードする職員を目指していく。

個別研修としては、管理者及び主任が志賀セミナーを受講し、組織運営および支援力の向上を図った。

強度行動障害支援者養成研修の基礎研修に1名、実践研修に1名が参加し、専門的支援技術の習得を進めるとともに、強度行動障害者への支援体制強化を目的として、北海道の社会福祉法人ゆうゆうへの視察を1名が実施し先進的な取り組みの知見を得ている。

サービス管理責任者実践研修に1名が参加し、サービス提供体制の質の向上に努めた。

食品衛生責任者実務講習会には1名が2回参加し、衛生管理体制の維持・強化を図った。

高齢知的障害者への支援に関する研修会に1名が参加し、利用者の高齢化に対応した支援のあり方について理解を深めている。

権利擁護および虐待防止の観点から権利擁護・虐待防止セミナーに1名が参加し、利用者の権利を尊重した支援について学んでいる。

さらに、災害時における支援体制の強化を目的として、災害支援に関する研修、BCP策定講座および防災講習会に1名が参加し、非常時における対応力の向上と事業継続体制の整備を推進した。

Ⅲ. 対処すべき課題

・生活介護（定員60名）

・数年前から利用者本人およびご家族の高齢化が進み、急な体調不良や病気により医療的ケアが必要となる方が増えている。令和6年度には、65歳となり介護サービスへ移行した利用者が3名いたが、現在も60代の利用者が約9名在籍しており、令和10年には再び移行者が増え「第2波」が訪れる見込みである。今後も利用者数の減少が予想されることから、令和7年度に続き、特別支援学校や小中学校、放課後デイサービス事業所との交流を通じて作業内容を体験・理解してもらい、作業所の認知度向上を図るとともに、

卒業後の進路先として選んでもらえるよう取り組んでいく。また、相談支援事業所や特別支援学校と連携し、新規利用者の確保にも努めていく必要がある。

・日中一時支援

日中一時支援事業（成人：定員 70 名）

・令和 7 年度は利用者の高齢化が進んだこともあり、移動に車いすや歩行器を使用する方が増え、5：1 の職員配置では対応が難しい状況が生じた。また、売上と人件費のバランスが取りにくいこともあり、室内で楽しめる企画を提案し、利用者を楽しんでもらえるよう工夫した。季節のイベントや調理実習などを毎月計画し、特に調理実習では安全面に十分配慮しながら実施したことで、安心・安全に取り組むことができた。

また、介護保険へ移行した利用者が日中一時支援を利用するようになり、令和 7 年度現在では 4 名が利用している。

日中一時支援事業（児童）

・令和 7 年度に日中一時支援を再開し、働ける生活介護として作業所に興味を持つ児童に対し、紙漉き、下請け作業、農園作業などを体験できる機会を設けている。これにより、卒業後に作業所へ通所する際の環境変化を少しでも軽減し、精神的負担を抑えながら円滑に移行できるよう取り組んでいる。再開後は契約者 10 名のうち、主に 5 名の児童が利用している。再開から 1 年が経過した現在、利用者をさらに増やせるよう、営業活動を行うとともに、作業所の認知度向上にも引き続き努めていく。

IV. 利用者の状況

碧南ふれあい作業所	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和7年度	令和6年度
生活介護	延べ人数	1124	1112	1067	1209	1009	1012	1128	1069	997	968	1001	1082	12778	12778
	一日平均	51.1	55.6	50.8	55.0	53.1	48.2	51.3	53.5	49.9	48.4	50.1	51.5	51.5	52.4
	営業日数	22	20	21	22	19	21	22	20	20	20	20	21	248	244
	利用率	85.2%	92.7%	84.7%	91.6%	88.5%	80.3%	85.5%	89.1%	83.1%	80.7%	83.4%	85.9%	85.9%	87.30%
日中一時（成人）	延べ人数	89	83	83	83	40	78	84	85	70	76	61	87	919	963
	営業日数	23	21	22	23	19	22	23	22	21	21	21	22	260	256
日中一時（児童）	延べ人数	10	13	12	18	23	12	11	10	15	15	11	21	171	26
	営業日数	7	8	9	14	20	7	7	6	7	6	7	7	105	25

V. 職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1				1							
サービス管理責任者	1				1							
生活支援員	7	8	3	1	4	7		1		1		1
看護師		3				3						
調理員		1		1								
カウンセラー	1					1						
合計	10	12	3	2	6	11	0	1	0	1	0	1

第二号第四様式（第二十三条第四項関係）

碧南ふれあい作業所拠点区分事業活動計算書

（自）令和 7年 4月 1日（至）令和 8年 3月31日

（単位：円）

勘 定 科 目			当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)－(B)
サ ー ビ ス 活 動 増 減 の 部	収 益	0075 障害福祉サービス等事業収益	108,198,499	108,963,708	△765,209
		0076 自立支援給付費収益	96,409,058	95,474,602	934,456
		5341 介護給付費収益	96,409,058	95,474,602	934,456
		5352 利用者負担金収益	484,438	20,800	463,638
		5364 特定費用収益	4,818,250	4,822,700	△4,450
		0078 その他の事業収益	6,486,753	8,645,606	△2,158,853
		5371 補助金事業収益(公費)	638,261	2,737,006	△2,098,745
		5372 受託事業収益(公費)	5,848,492	5,908,600	△60,108
		0086 その他の事業収益	5,832,602	5,891,671	△59,069
		0087 その他の事業収益	5,832,602	5,891,671	△59,069
		5523 その他の事業収益	5,832,602	5,891,671	△59,069
		0089 経常経費寄附金収益	50,000	50,000	
		5541 経常経費寄附金収益	50,000	50,000	
	サービス活動収益計(1)		114,081,101	114,905,379	△824,278
ビ ス 活 動 増 減 の 部	費	0015 人件費	75,568,751	85,768,834	△10,200,083
		4112 職員給料	33,452,189	33,948,588	△496,399
		4113 職員賞与	7,742,600	8,422,693	△680,093
		4114 賞与引当金繰入	△336,000	1,810,000	△2,146,000
		4115 非常勤職員給与	23,417,873	29,169,150	△5,751,277
		4117 退職給付費用	1,671,100	1,520,800	150,300
		4118 法定福利費	9,620,989	10,897,603	△1,276,614
		0016 事業費	23,140,301	22,742,353	397,948
		4211 給食費	6,043,353	5,437,745	605,608
		4215 保健衛生費	1,093,839	1,609,046	△515,207
		4217 被服費	7,940	3,925	4,015
		4218 教養娯楽費	525,722	409,344	116,378
		4219 日用品費	349,497	25,082	324,415
		4222 本人支給金	4,383,730	4,926,865	△543,135
		4223 水道光熱費	5,141,729	5,307,230	△165,501
		4225 消耗器具備品費	600,725	311,455	289,270
		4226 保険料	35,750	26,780	8,970
		4227 賃借料	176,800	176,800	
		4228 教育指導費	1,809,520	1,271,319	538,201
		4231 葬祭費	74,110		74,110
		4232 車輛費	2,897,586	3,236,762	△339,176
		0017 事務費	9,032,543	9,326,234	△293,691
		4311 福利厚生費	320,659	404,940	△84,281
		4312 職員被服費	5,760	10,993	△5,233
		4313 旅費交通費	57,260	22,980	34,280
		4314 研修研究費	241,900	224,458	17,442
		4315 事務消耗品費	818,332	957,732	△139,400
		4316 印刷製本費	347,902	353,955	△6,053
		4319 修繕費	506,759	893,288	△386,529
		4321 通信運搬費	258,134	189,668	68,466
		4324 業務委託費	3,815,275	3,637,050	178,225
		4325 手数料	23,115	46,949	△23,834
		4326 保険料	723,838	686,065	37,773
		4327 賃借料	560,672	679,848	△119,176
		4328 土地・建物賃借料	120,000	120,000	
		4329 租税公課	147,200	86,100	61,100
	4331 保守料	934,380	885,980	48,400	

第二号第四様式（第二十三条第四項関係）

碧南ふれあい作業所拠点区分事業活動計算書
(自) 令和 7年 4月 1日 (至) 令和 8年 3月31日

(単位: 円)

勘 定 科 目			当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A)－(B)
		4332 渉外費	16,799	9,861	6,938
		4333 諸会費	97,100	95,600	1,500
		4335 雑費	37,458	20,767	16,691
		0027 減価償却費	783,113	381,879	401,234
		4451 減価償却費	783,113	381,879	401,234
		サービス活動費用計 (2)	108,524,708	118,219,300	△9,694,592
		サービス活動増減差額 (3)=(1)－(2)	5,556,393	△3,313,921	8,870,314
サ ー ビ ス 活 動 外 増 減 の 部	収 益	0093 受取利息配当金収益	206,839	49,050	157,789
		5821 受取利息配当金収益	206,839	49,050	157,789
		0098 その他のサービス活動外収益	2,238,580	466,750	1,771,830
		5871 受入研修費収益	43,080	27,900	15,180
		5872 利用者等外給食収益	449,500	438,850	10,650
		5874 雑収益	1,746,000		1,746,000
		サービス活動外収益計 (4)	2,445,419	515,800	1,929,619
	費 用	0038 その他のサービス活動外費用		242,000	△242,000
		4843 雑損失		242,000	△242,000
		サービス活動外費用計 (5)		242,000	△242,000
サービス活動外増減差額 (6)=(4)－(5)		2,445,419	273,800	2,171,619	
経常増減差額 (7)=(3)+(6)		8,001,812	△3,040,121	11,041,933	
特 別 増 減 の 部	収 益				
		特別収益計 (8)			
	費 用				
		特別費用計 (9)			
特別増減差額 (10)=(8)－(9)					
当期活動増減差額 (11)=(7)+(10)		8,001,812	△3,040,121	11,041,933	
繰 越 活 動 増 減 差 額 の 部	前期繰越活動増減差額 (12)		80,534,663	83,574,784	△3,040,121
	当期末繰越活動増減差額 (13)=(11)+(12)		88,536,475	80,534,663	8,001,812
	基本金取崩額 (14)				
	その他の積立金取崩額 (15)				
	その他の積立金積立額 (16)				
	次期繰越活動増減差額 (17)=(13)+(14)+(15)－(16)		88,536,475	80,534,663	8,001,812

事業所名

事業・拠点 [0404:碧南ふれあい作業所]

第三号第四様式（第二十七条第四項関係）

碧南ふれあい作業所拠点区分貸借対照表

令和 8年 3月31日現在

(単位:円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減		当年度末	前年度末	増 減
0001 流動資産	98,396,328	90,905,955	7,490,373	0006 流動負債	13,456,739	13,386,191	70,548
1111 現金	87,713	34,087	53,626	2112 事業未払金	9,394,739	8,988,191	406,548
1112 預金	80,195,532	73,220,564	6,974,968	2152 賞与引当金	4,062,000	4,398,000	△336,000
1131 事業未収金	16,938,899	17,051,290	△112,391	0007 固定負債	3,012,270	3,202,920	△190,650
1132 未収金	1,174,184	59,910	1,114,274	2321 退職給付引当金	3,012,270	3,202,920	△190,650
1133 未収補助金		540,104	△540,104	負債の部合計	16,469,009	16,589,111	△120,102
0002 固定資産	42,609,156	42,217,819	391,337	純 資 産 の 部			
0004 その他の固定資産	42,609,156	42,217,819	391,337	0011 その他の積立金	36,000,000	36,000,000	
1313 構築物	735,000	735,000		3221 その他の積立金	36,000,000	36,000,000	
1314 機械及び装置	262,500	262,500		0012 次期繰越活動増減差額	88,536,475	80,534,663	8,001,812
1315 車輛運搬具	605,220	605,220		3311 次期繰越活動増減差額	88,536,475	80,534,663	8,001,812
1316 器具及び備品	8,337,092	6,971,992	1,365,100	3312 (うち当期活動増減差額)	8,001,812	△3,040,121	11,041,933
1318 減価償却累計額 △	6,342,926	5,559,813	783,113				
1329 退職給付引当資産	3,012,270	3,202,920	△190,650				
1332 その他の積立資産	36,000,000	36,000,000		純資産の部合計	124,536,475	116,534,663	8,001,812
資産の部合計	141,005,484	133,123,774	7,881,710	負債及び純資産の部合計	141,005,484	133,123,774	7,881,710

碧南ふれあい作業所 令和8年度事業計画（案）

I. 基本理念

- ・「作業に特化した生活介護」 社会人として毎日仕事をしながら、生活介護としてのプログラムや楽しみもある施設。仕事と余暇のメリハリのある生活を目指す。
- ・「高齢利用者の活躍の場を」 高齢になってもできる仕事に取り組み、いつまでも社会の一員として働ける環境を提供し、人生の生きがいと一緒に見つける。
- ・「社会の中で役割を担い地域に貢献できる存在となる」 障害のある方が社会の中で役割を持ち、地域に貢献していく。地域の一員として活動することで、自信を育み、意欲につなげる。また、地域住民にとっても、障害のある方と自然に関わる機会が増えることで理解が深まり、共生社会の実現に向けた土壌を育てていく。

運営方針

- ・作業所は生活介護としては作業量が多いのが特徴であり、利用者の方も「仕事に来ている」という意識の方が多い。また家族も「就職してほしい」という思いから作業所を選択される方が多い。他の生活介護事業所にはない特色であり、ある程度の収入を得られることを強みとして今後も維持・向上を図っていく。また新規利用者にも繋がることでもあるので、そこをアピールする機会を設けていく。紙すきや花苗など特化した作業もあり、作業所の強みである生產品を通じて地域交流のきっかけとして作っていく。作業とは別に、月に1度の創作活動や季節にあった行事なども積極的に取り入れ、仕事と余暇のメリハリのある生活を送れるように支援していく。令和5年度から「中山福祉の会」の活動に協力しており、今年度も会の人たちや中央中学校の人たちと花苗を通じて交流を図った。中山地区の住民に障がい者施設の事を知ってもらえるように引き続き活動に参加していく。
 - ・高齢になってもいままでの仕事や経験を尊重しながら、本人に合ったものを提供していく。令和5年の途中から碧南市の方針として65歳になると同時に介護保険に移行する事になった。今年度は、65歳になる利用者で介護保険に認定される方はいなかったが、数年後に5名の方が介護保険の対象になる為、本人の希望で作業所に通いたいと言ってくれる方に対し高齢班を充実させ、引き続き魅力ある作業所としていきたい。
 - ・令和2年度にひいらぎ特別支援学校との出前授業が始まり、令和6年度からは、にしお特別支援学校との交流がスタートした。作業所の卒業生が講師となり、花苗づくりを通じて生徒へ技術を伝える取り組みを行い、育てた花は西尾市役所やおしろタウンシャオに設置していただくことで、地域との交流の場を広げている。これらの活動は、卒業生自身の成長につながるだけでなく、地域の方々に障害のある方について知っていただく貴重な機会にもなっている。
- さらに、令和7年度からは安城特別支援学校との交流も始まり、花苗づくりや紙漉きの活動を通じて、卒業生が講師として活躍しながら地域貢献を進めている。
- 今後も、これらの取り組みを継続し、地域とともに成長していける活動として発展させていきたい

い。

Ⅱ．事業計画

令和7年度計画の振り返り

○現状分析・課題

生活介護（定員60名）

① 新規利用者2名を目指す

・令和7年度は、4月に卒業生1名と新規利用者1名を受け入れ、さらに6月には高浜市から新規利用者1名が加わり、計3名の新規利用につなげることができた。ただ、7月に1名退所。一方で、施設全体としては高齢化が進んでいることから、今後も卒業生の受け入れはもちろん、地域で行き場のない方々を受け入れられる体制づくりが求められている。そのため、相談支援事業所や特別支援学校との連携をより一層強化し、地域のニーズに応えられる支援体制の整備を進めていく。

② 地域交流

・わらふえすや各種イベントでは、移動式の紙漉き機を活用し、来場者が紙漉きを体験できる機会を設けた。完成したハガキは後日作業所まで取りに来ていただくことで、地域の方に実際に作業所へ足を運んでもらうきっかけづくりにもつながっている。また、認知症関連のイベントでは、作業所で育てたマリーゴールドの種を配布し、作業所の取り組みを地域に知っていただく機会を設け、地域貢献につなげる予定であった。しかし、今年度はイベント自体が休止となり、参加することができなかった。

・紙すき体験の場を年2回設けるにあたり、今年度は、にしお特別支援学校と安城特別支援学校へ移動式の紙すき機を持参し、利用者が講師となって生徒に紙すき体験を行った。

・花苗という作業所のツールを活用し、中央幼稚園や西端小学校との交流を行った。幼少期から障がいのある方と接する機会をつくることで、「自分とは違う特長を持つ人がいる」ということを自然に理解してもらい、それが当たり前の風景として根付くように交流を進めた。

・令和5年度から「中山福祉の会」の活動に協力している。今年度もその一環として、中央中学校の生徒とともに花苗を育て、地域の花壇の植え替えを利用者と一緒に行った。

③ 利用者の健康管理

・毎朝朝礼後にラジオ体操を行った。引き続き行っていく。

・高齢班だけではなく、全利用者の健康管理を行う為にも月に1～2回「ボッチャプログラム」「ピース体操（アイディアC体操）」を引き続き行っていき、体力維持を図った。

・ボッチャプログラムは、知多郡美浜町にある社会福祉法人みはま福祉会が運営する生活介護事業セルプ・アゼーリアと10月に試合を行い2対1で負けた。11月の日本福祉大学のボッチャ大会では、2回戦敗退に終わった。2月には、社会福祉法人くるみ会と試合を行い、3対0で負けた。職員が健康の知識をつける為の研修は行えなかった。

④ 利用者支援の強化

・令和6年度に引き続き、令和7年度も利用者の気持ちを知る会議を月1回開催した。今年度は主に、強度行動障害に関する冰山モデル作成の講習を実施し、職員が福祉業界の最新の支援知識を身につけられるよう研修を行った。これにより、職員一人ひとりの支援に対する意識向上を図ることができた。また、障がい者総合支援センター第2ひまわりとはリモートで冰山モデルの作成方法について学び、さらに株式会社あいぼへ見学に伺い、強度行動障害の支援方法について理解を深めた。外部研修で得た知識は職員会議で共有し、支援の質の向上につなげていった。

⑤ インカムの導入

・令和7年度からインカムを導入し、業務連絡をより円滑に行える体制を整えた。

⑥ 国際共生

・令和7年度は毎月ポルトガル語研修を実施した。研修当初は発音アプリを活用して勉強会を行っていたが、それだけでは習得が難しい面もあったため、途中からポルトガル語を話せる職員を講師として招き、挨拶から日常の簡単な会話まで学習を進めた。その結果、今年度から通所しているブラジルの利用者の方に、職員がポルトガル語で挨拶できる程度まで上達することができた。今後、外国籍の利用者が増える可能性もあるため、引き続き簡単な日常会話ができるレベルを目指して日々努力していきたい。

生活介護（定員60名）

・数年前から利用者本人およびご家族の高齢化が進み、急な体調不良や病気により医療的ケアが必要となる方が増えている。令和6年度には、65歳となり介護サービスへ移行した利用者が3名いたが、現在も60代の利用者が約9名在籍しており、令和10年には再び移行者が増え「第2波」が訪れる見込みである。

今後も利用者数の減少が予想されることから、令和7年度に続き、特別支援学校や小中学校、放課後デイサービス事業所との交流を通じて作業内容を体験・理解してもらい、作業所の認知度向上を図るとともに、卒業後の進路先として選んでもらえるよう取り組んでいく。また、相談支援事業所や特別支援学校と連携し、新規利用者の確保にも努めていく必要がある。

・中期計画では、ガイアが共生型を行うと同時に、ふれあい作業所は、多機能型事業所（生活介護と就労B型）の開始が必要になってくる可能性がある。理由としては、医療的ケアや重度支援が必要な利用者の受け皿としての役割が強まる。その結果、働く活動を中心に利用していた人などは、ガイアよりもふれあい作業所の方が適した場所になる。ふれあい作業所が生活介護と就労支援B型を持つことで、利用者の状態に応じた自然な移動・再配置が可能になる。このように役割を整理することで、「どの利用者がどちらを利用すべきか」が明確になり、利用者・家族・相談支援専門員にとっても理解しやすくなる。

日中一時支援事業（成人：定員70名）

・令和7年度は利用者の高齢化が進んだこともあり、移動に車いすや歩行器を使用する方が増え、5:1の職員配置では対応が難しい状況が生じた。また、売上と人件費のバランスが取りにく

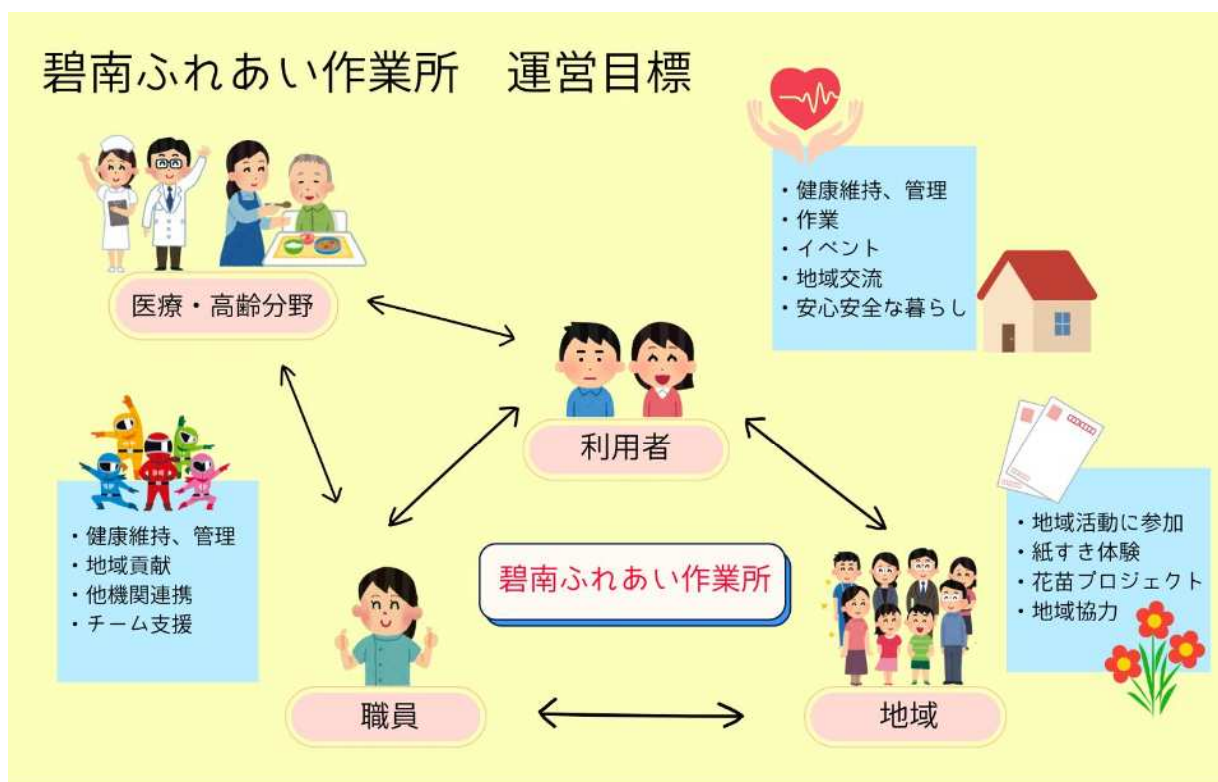
いこともあり、室内で楽しめる企画を提案し、利用者に楽しんでもらえるよう工夫した。季節のイベントや調理実習などを毎月計画し、特に調理実習では安全面に十分配慮しながら実施したことで、安心・安全に取り組むことができた。

また、介護保険へ移行した利用者が日中一時支援を利用するようになり、令和7年度現在では4名が利用している。

日中一時支援事業（児童）

・令和7年度に日中一時支援を再開し、働ける生活介護として作業所に興味を持つ児童に対し、紙漉き、下請け作業、農園作業などを体験できる機会を設けている。これにより、卒業後に作業所へ通所する際の環境変化を少しでも軽減し、精神的負担を抑えながら円滑に移行できるよう取り組んでいる。再開後は契約者10名のうち、主に5名の児童が利用している。再開から1年が経過した現在、利用者をさらに増やせるよう、営業活動を行うとともに、作業所の認知度向上にも引き続き努めていく。

A. 運営目標・事業計画



① 新規利用者1名を目指す

・令和8年度中に介護保険に移行する方はいないが、高齢化が進んでいる為、新規利用者1名を目指す。卒業生はもちろん、地域で行き場のない方々を受け入れられるような体制を作り、相談支援事業所や特別支援学校と連携を図っていく。

② 地域交流

- ・紙すき体験や農園で育てた花苗を通じて、市内の小中学校と交流を深め、利用者と児童が関わ
り合う機会を広げていく。市役所とも連携しながら、地域への貢献を進めていく。
- ・花苗という作業所の取り組みを活用し、幼稚園・保育園との交流を進めていく。幼少期から障
がいのある方と接する機会をつくることで、「自分とは違う特長を持つ人がいる」ということを
自然に理解できる環境を育み、それが地域の当たり前の風景となることを目指す。
- ・特別支援学校へ出前授業として出向き、利用者が講師となって生徒に紙すきや花苗づくりを教
えながら交流を深める。育てた花は地域の施設に設置してもらい、「花」を通じて地域に彩りを
添えることで、魅力あるまちづくりの一端を地域の障がい者とともに担っていく。
- ・わらふえすや各種イベントで移動式の紙すきを活用し、紙すき体験の機会を提供する。完成し
たハガキを受け取りに作業所へ来てもらうことで、地域の方々に作業所へ足を運んでもらうきっ
かけをつくる。
- ・令和5年度から「中山福祉の会」の活動に協力している。この活動を通じて地域交流の機会が
広がっているため、今後も継続して協力していく。

③ 利用者の健康管理

- ・毎朝作業前にラジオ体操を行う
- ・高齢班に限らず全利用者の健康管理のため、月に1~2回「ボッチャプログラム」や「ピース
体操」を継続して実施し、体力維持を図っていく。ボッチャプログラムでは大会への参加や、他
施設との練習試合も行っていく。また、職員が健康に関する知識を深めるため、研修等への参加
も進めていく。
- ・高齢化が進む中、作業所では緊急時に備えて同意書を取得している。それに伴い、救急車到着
までの蘇生を希望される利用者にはAEDが必要となるため、毎年、外部講師を招いて職員向けの
AED講習を実施していく。

④ 利用者支援の強化

支援力向上研修

- ・職員の専門性の向上と支援力の底上げを目的として、職員主体による研修企画制度を実施する。
各職員が日頃の支援実践や関心分野、課題意識をもとに研修テーマを持ち寄り、企画・運営を担
っていく。受動的な研修参加ではなく、主体的に学びを発信する機会を設けることで、知識の深
化と実践力の向上を図っていく。

氷山モデル作成研修

- ・利用者支援の質の向上を目的として、氷山モデルを活用した研修を実施していく。職員が支援
場面での事例を持ち寄って、行動の背景要因を構造的に整理する演習をおこない、問題行動への
対処的支援から、要因分析に基づく予防的・個別的支援へと転換を図ることを目的とする。

⑤ 国際共生

多文化共生×障害福祉研修

・国際社会を見据えて、移民社会として先行する諸外国で行われている政策を学び、日本の現場に
 応用可能な視点を獲得することを目標とする。文化的な配慮や、差別防止政策、障害と移民の
 交差などの具体的な実践事例を例に挙げつつ、職員の国際感覚の向上や外国ルーツの利用者への
 支援改善を目指したインクルーシブ支援研修を行う。

B. 数値目標

	碧南ふれあい作業所	事業活動収入計
利用定員	60人	
利用者延数	12850人	
1日平均利用者数	51.4人	
稼働率、稼働指数*	85.7%	
稼働日数	250日	
障害福祉サービス収入	10,794千円	10,986千円
職員数（常勤換算）	13.0人	13.0人

サビ管込み
管理者なし

Ⅲ. 職員について

配置計画

従業者の 職種・員数	職種		サービス管理責任者		看護職員		生活支援員		調理員	
	専従	兼務の別	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務
常勤(人)	①	②	1				1	6		1
非常勤(人)	③	④			3		8		1	
当該職種の勤務延べ時間数	160		242.00		1911.5		89			
常勤換算後の人数	1		1.60		11.95		0.6			

【碧南ふれあい作業所が目指す職員像】

『利用者の気持ちに寄り添い、自分で考え行動ができ、職員で共有し合える伴走者（職員）になろう』

まずは、自分の気持ちを理解し、他者の持っている視点や意見を理解し、自分ごととして感じとり、共感力を高めていく。それと共に、行動も変化していけるようにしていく。

研修計画

・事業所内研修

多文化共生×障害福祉研修：文化差を「課題」としてではなく「前提」として捉え、コミュニケーション方法や支援の工夫を学び、異文化理解を深めることで、誤解や支援のミスマッチを防ぎ、安心できる環境づくりを目指していく。

支援力向上研修：事例検討やグループワークを通して支援の根拠を明確にし、属人的支援からチ

ーム支援へと質を高める。職員間の共通理解を図り、支援の質の向上につなげていく。

冰山モデル作成研修：利用者の「行動」だけでなく、その背景にある感情・特性・環境要因などを整理する冰山モデルを作成していき、表面的な問題対応だけではなく、要因分析に基づく予防的支援を学ぶ。事例を用いて可視化することで、支援の方向性を共有し、統一した対応につなげていく。

AED 講習：高齢化が進む中、作業所では緊急時に備えて同意書を取得している。それに伴い、救急車到着までの蘇生を希望される利用者には AED が必要となるため、外部講師を招いて職員向けの AED 講習を実施していく。

虐待防止委員会研修：事業所に設置した委員会メンバーによる虐待を防止するための研修。

- ・個別の研修計画 別紙参照

IV. 年間事業（行事）計画

区分	内 容
全体地区行事	わらふえす
地域参加行事	中山福祉の会
事業所行事	社会見学 わんこそうめん大会 ハロウィンパーティー クリスマス会 もちつき大会 BBQ大会
保健・医療・衛生管理	利用者健康診断 職員健康診断 インフルエンザ予防接種 歯科検診
職員会議	職員会議（週 1 回） 身体拘束適正化委員会（月 1 回） 虐待防止委員会（年 4 回）
保安防災対策	防災・避難訓練（年 4 回） 起震車体験会

V. 固定資産購入、修繕等

- ・令和 8 年度から 9 年度にかけて館内のエアコンの交換
- ・令和 8 年度から LED に順次対応していく
- ・ハイエースワイドがリース満了につき返却する為、車両（キャラバン）の入れ替え 4,500,000 円
- ・タントの老朽化により入れ替え予定 950,000 円
- ・職員業務用パソコン 200,000 円

※施設老朽化の為、随時修繕の優先順位を考えていく。

事業所名

事業・拠点 [0404:碧南ふれあい作業所]

資 金 収 支 当 初 予 算

令和 8年 4月 1日

(単位: 円)

勘 定 科 目		前年度予算額	当初予算額	増 減
事業収入	0184 障害福祉サービス等事業収入	108,000,000	112,050,000	4,050,000
	0185 自立支援給付費収入	97,300,000	100,400,000	3,100,000
	8341 介護給付費収入	97,300,000	100,400,000	3,100,000
	8352 利用者負担金収入		400,000	400,000
	8371 特定費用収入	4,800,000	5,200,000	400,000
	0187 その他の事業収入	5,900,000	6,050,000	150,000
	8381 補助金事業収入(公費)	500,000		△500,000
	8382 受託事業収入(公費)	5,400,000	6,050,000	650,000
	0195 その他の事業収入	4,600,000	5,200,000	600,000
	0196 その他の事業収入	4,600,000	5,200,000	600,000
	8494 その他の事業収入	4,600,000	5,200,000	600,000
	0199 経常経費寄附金収入	50,000		△50,000
	8531 経常経費寄附金収入	50,000		△50,000
	0200 受取利息配当金収入	150,000	150,000	
	8541 受取利息配当金収入	150,000	150,000	
	0201 その他の収入	1,030,000	1,065,000	35,000
	8612 利用者等外給食費収入	430,000	450,000	20,000
	8613 雑収入	600,000	615,000	15,000
	事業活動収入計(1)	113,830,000	118,465,000	4,635,000
活動に要する支出	0129 人件費支出	77,250,000	82,110,000	4,860,000
	7112 職員給料支出	33,600,000	36,600,000	3,000,000
	7113 職員賞与支出	7,850,000	9,000,000	1,150,000
	7114 非常勤職員給与支出	24,200,000	24,210,000	10,000
	7116 退職給付支出	1,700,000	1,600,000	△100,000
	7117 法定福利費支出	9,900,000	10,700,000	800,000
	0130 事業費支出	24,870,000	23,890,000	△980,000
	7211 給食費支出	5,800,000	5,900,000	100,000
	7215 保健衛生費支出	1,200,000	1,200,000	
	7217 被服費支出	15,000	15,000	
	7218 教養娯楽費支出	650,000	620,000	△30,000
	7219 日用品費支出	410,000	400,000	△10,000
	7222 本人支給金支出	4,500,000	4,000,000	△500,000
	7223 水道光熱費支出	6,000,000	5,500,000	△500,000
	7225 消耗器具備品費支出	600,000	600,000	
	7226 保険料支出	75,000	75,000	
	7227 賃借料支出	200,000	200,000	
	7228 教育指導費支出	1,910,000	1,920,000	10,000
	7231 葬祭費支出	50,000	50,000	
	7232 車輛費支出	3,450,000	3,400,000	△50,000
	7235 雑支出	10,000	10,000	
	0131 事務費支出	10,225,000	11,465,000	1,240,000
	7311 福利厚生費支出	450,000	600,000	150,000
	7312 職員被服費支出	30,000	25,000	△5,000
	7313 旅費交通費支出	100,000	100,000	
	7314 研修研究費支出	370,000	350,000	△20,000
	7315 事務消耗品費支出	1,100,000	1,100,000	
	7316 印刷製本費支出	360,000	350,000	△10,000
	7319 修繕費支出	800,000	1,000,000	200,000
	7321 通信運搬費支出	280,000	280,000	
	7323 広報費支出	10,000	10,000	
	7324 業務委託費支出	3,900,000	4,000,000	100,000

事業・拠点 [0404:碧南ふれあい作業所]

資 金 収 支 当 初 予 算

令和 8年 4月 1日

(単位: 円)

勘 定 科 目		前年度予算額	当初予算額	増 減
	7325 手数料支出	70,000	50,000	△20,000
	7326 保険料支出	800,000	800,000	
	7327 賃借料支出	600,000	1,400,000	800,000
	7328 土地・建物賃借料支出	120,000	120,000	
	7329 租税公課支出	220,000	200,000	△20,000
	7331 保守料支出	800,000	850,000	50,000
	7332 渉外費支出	25,000	30,000	5,000
	7333 諸会費支出	150,000	150,000	
	7335 雑支出	40,000	50,000	10,000
	事業活動支出計(2)	112,345,000	117,465,000	5,120,000
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		1,485,000	1,000,000	△485,000
施設整備等による収支	収 入			
	施設整備等収入計(4)			
	支 出			
	0144 固定資産取得支出	1,370,000	6,150,000	4,780,000
	7523 車輛運搬具取得支出		5,450,000	5,450,000
	7524 器具及び備品取得支出	1,370,000	700,000	△670,000
	施設整備等支出計(5)	1,370,000	6,150,000	4,780,000
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△1,370,000	△6,150,000	△4,780,000
その他の活動による収支	収 入			
	その他の活動収入計(7)			
	支 出			
	その他の活動支出計(8)			
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)				
予備費支出(10)		565,000	500,000	△65,000
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		△450,000	△5,650,000	△5,200,000
前期末支払資金残高(12)		450,000	10,150,000	9,700,000
当期末支払資金残高(11)+(12)			4,500,000	4,500,000